

要覧

施設目的

水産資源を持続的に利用しながら漁業者の所得向上を目指す「ふくしま型漁業」を実現させるためには、漁獲加入を安定させる種苗放流や適切な資源管理が必要となります。

福島県水産資源研究所は、震災・原発事故により甚大な被害を受けた福島県の沿岸漁業の再生に向け、効果的な栽培漁業の推進及び資源管理の高度化など新たな研究課題に対応することを目的に設置されました。

種苗生産能力



ヒラメ
・全長10cmサイズ
・100万尾



アワビ
・殻長3cmサイズ
・100万個



アユ
・全長6cmサイズ
・300万尾

業務内容

●事務部(職員2名)

- 予算、財産に関すること
- 施設の管理に関すること

●種苗研究部(職員5名)

- 水産生物の種苗性改善に関する研究
 - ・ ホシガレイ優良種苗生産技術の開発
- 栽培漁業対象種の放流技術に関する研究
 - ・ ホシガレイの放流技術に関する研究
 - ・ 栽培漁業対象種の放流技術に関する研究(ヒラメ)
- 環境から魚介類へ取り込まれる放射性物質の動態把握
 - ・ 飼育試験による放射性セシウムの取込・排出過程の解明



●資源増殖部(職員4名)

- 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明
 - ・ 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明
 - ・ 底魚資源の管理手法に関する研究
- 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
 - ・ ヒトエグサの生育と環境に関する研究
 - ・ アサリ資源増殖技術の開発
- 緊急時環境放射線モニタリング

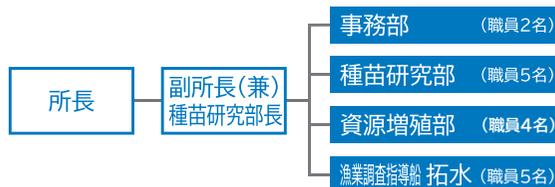


●漁業調査指導船拓水(職員5名)

主な業務: 漁業資源調査、放射性物質関連調査、海洋観測
 総トン数: 37トン
 主機関: 809kW
 主要寸法: 全長26.4m 幅4.6m 深さ2.0m
 建造: 令和4年3月
 速力: 16.2ノット(航海)



組織



沿革

平成23年3月 東日本大震災により水産種苗研究所(大熊町)被災
 平成24年5月 水産種苗研究・生産施設復旧: 計画検討
 平成25年1月 設置場所決定(相馬市・新地町)
 平成25年7月 水産種苗研究・生産施設復旧: 基本設計業務委託
 平成26年9月 水産種苗研究・生産施設復旧: 実施設計業務委託
 平成28年1月 水産種苗研究・生産施設復旧: 敷地造成工事着工
 平成28年7月 水産種苗研究・生産施設復旧: 建築工事着工
 平成30年3月 水産種苗研究・生産施設復旧: 研究施設工事了
 平成30年6月 水産資源研究所として組織改編、一部供用開始
 平成30年10月 種苗生産委託業務開始
 平成30年12月 温海水通水
 平成31年2月 全体供用開始
 令和3年3月 自然海水通水
 令和3年3月 水産種苗研究・生産施設復旧: 全工事了

アクセス

福島県水産資源研究所
 〒976-0005
 福島県相馬市光陽一丁目1-14
 TEL: 0244-32-0792
 FAX: 0244-32-0795
 shigenken@pref.fukushima.lg.jp



JR相馬駅から車で15分
 常磐自動車道相馬ICから車で20分
 常磐自動車道新地ICから車で10分

福島県水産関連機関

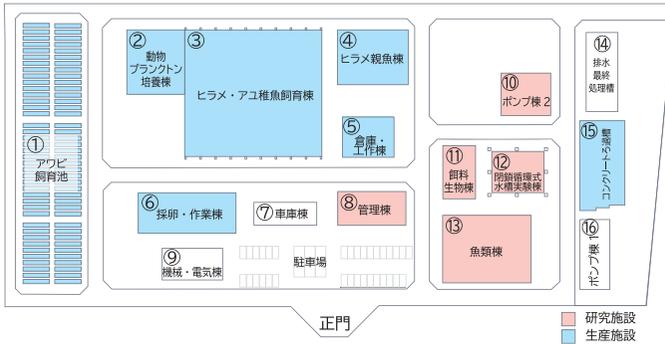


発行 令和5年4月1日



福島県水産資源研究所

施設配置図



番号	建物名	機能・特徴
①	アワビ飼育池	屋外池、アワビ種苗100万個の種苗生産が可能
②	動物プランクトン培養棟	種苗生産用の動物プランクトンを培養
③	ヒラメ・アユ稚魚飼育棟	ヒラメ種苗100万尾、アユ種苗300万尾の生産が可能
④	ヒラメ親魚棟	種苗生産用のヒラメ親魚を飼育
⑤	倉庫・作業棟	飼育資機材の保管と加工
⑥	採卵・作業棟	アワビの採卵と幼生管理を実施
⑦	車庫棟	公用車を駐車
⑧	管理棟	管理室(研究施設・生産施設)、生物実験室を配置
⑨	機械・電気棟	施設に電気、温水及びエアを供給
⑩	ポンプ棟2	研究施設に海水を供給
⑪	餌料生物棟	餌料生物培養技術の試験研究を実施
⑫	閉鎖循環式水槽実験棟	試験規模(5m水槽)の閉鎖循環式飼育設備を備える。
⑬	魚類棟	水産種苗生産に関する試験・研究を実施
⑭	排水最終処理槽	施設内で排出された飼育水を浄化処理
⑮	コンクリートろ過槽	生産施設に海水を供給
⑯	ポンプ棟1	各ろ過槽に海水を供給

施設で使用する海水

発電所温海水の利用

水産資源研究所では、相馬共同火力発電所から放出される温海水と自然の海水を取水することが可能です。

温海水とは、発電所のタービンを回した後、蒸気を水に戻す際の冷却に使用された海水で、水温は自然海水よりも7℃高くなっています。

この温海水をヒラメやアワビの親の養成や稚魚の飼育に利用することにより、採卵時期の調整や種苗の成長促進が可能となります。



施設紹介

●魚類棟

施設配置図⑬

魚類棟では、魚類の種苗生産や親魚養成等の試験を行っています。



●閉鎖循環式水槽実験棟

施設配置図⑫

閉鎖循環式水槽実験棟では、閉鎖循環設備を用いた飼育実験を実施しています。



●餌料生物棟

施設配置図⑪

餌料生物棟では、餌料生物培養技術の試験研究と飼育実験等で必要となる餌料生物の供給を行っています。



●ポンプ棟・コンクリートろ過施設

施設配置図⑩⑮⑯

ポンプ棟・コンクリートろ過施設は、新地発電所から送水される温海水と海から取水した海水を水産資源研究所に引き込み、各施設に供給しています。



●ヒラメ・アユ稚魚飼育棟

施設配置図⑬

ヒラメ・アユ稚魚飼育棟では、ヒラメ(100万尾規模)やアユ(300万尾規模)の種苗生産を行っています。



●ヒラメ親魚棟

施設配置図④

ヒラメ親魚棟では、ヒラメ種苗生産に用いる卵確保のため、親魚の養成を行っています。



●採卵作業棟・アワビ飼育池

施設配置図①⑥

採卵作業棟では、アワビの採卵及び幼生管理をします。その後、屋外のアワビ飼育池で3cmサイズまで継続飼育します(100万個規模)。



●動物プランクトン培養棟

施設配置図②

動物プランクトン培養棟では、ヒラメやアユ稚魚の餌となる動物プランクトン(シオミズツボムシ80億規模、アルテミア20億規模)を培養します。

